

医療法人えいしん会
岸和田
リハビリテーション病院

| | |
|--------|------------------------------------|
| 名称 | 医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院 |
| 理事長・院長 | 石川 秀雄 |
| 開設 | 1981年5月1日 |
| 許可病床数 | 157床(うち回復期リハビリテーション病棟140床・一般病床17床) |
| 診療科目 | 内科 / 呼吸器内科 / リハビリテーション科 |
| 職員数 | 301名(2019年11月現在) |
| 認定施設 | 日本呼吸器学会関連施設 / (財)日本医療機能評価認定 |

アクセス

車でお越しの方(大阪方面より)

- 26号線から「別所東2号」を左折500m
- 2阪神高速4号湾岸線「岸和田南」より府道29号線、府道39号線経由で15分
- 阪和道「岸和田和泉」より府道230号線、国道26号線経由で20分

電車でお越しの方

- JR阪和線「東岸和田駅」下車徒歩10分
- 南海本線「岸和田駅」下車徒歩25分
- 送迎バスが運行しております。(無料)

飛行機でお越しの方(関西国際空港より)

- 車でお越しの方
関空道経由4号湾岸線「岸和田南」より府道29号線、国道26号線を経由し、「別所東2号」交差点を右折後500m(所要時間25分)
- 電車でお越しの方
JR関空快速大阪市内方面行乗車、「東岸和田駅」下車徒歩10分(所要時間35分)



住所: 〒596-0827 大阪府岸和田市上松町二丁目8番10号
TEL: 072-426-7777 / FAX: 072-426-7771 / <https://www.eishinkai.hospital>

岸リハ 検索

KISHIWADA REHABILITATION HOSPITAL

医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院



積極的な医療と あたたかな環境で 患者さまをサポートします。

理念 あきらめない医療

基本方針 高度で専門的な医療を
提供させていただくことをお約束します。

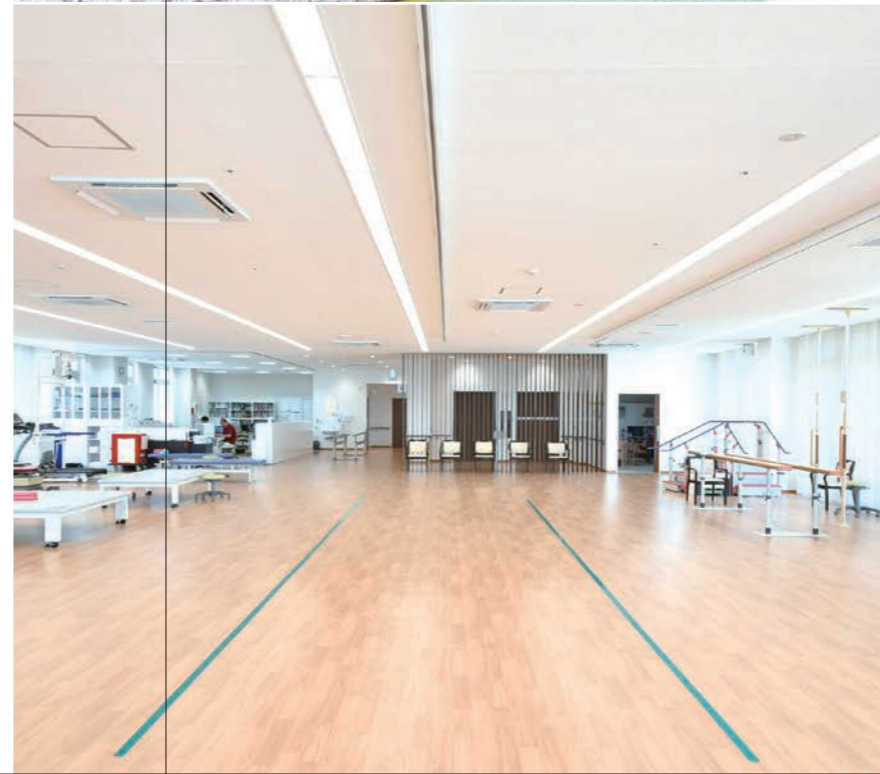
プロフェッショナルとして自己研鑽に励み、
日本の医療に貢献します。

日本一あたたかな入院環境と
職場環境づくりを目指して、改善に努めます。

ご挨拶

「えいしん会 岸和田リハビリテーション病院」は、回復期リハビリテーション、呼吸リハビリテーション、喀血治療に特化したユニークな施設です。リハビリセンター(回りハ)は、病床数・リハビリスタッフ数ともに南大阪最大の規模を誇り、生和会グループの一員として、根拠に基づいた「攻めるリハビリ」を展開しています。当院は日本呼吸器学会関連施設でもあり、回りハとの相乗効果を狙って、呼吸リハセンターを立ち上げました。喀血・肺循環センターは、喀血のカテーテル治療に特化し、世界の喀血治療をリードする施設です。2018年には現在地に新築移転し、充実した医療環境が整いました。今後も私たちは、病院理念「あきらめない医療」を力強く追求してまいります。

理事長・病院長 石川 秀雄



リハビリテーションセンター

REHABILITATION CENTER



365日対応の積極的な攻めるリハビリテーション

充実した環境を整え、積極的なリハビリテーションを毎日提供。「呼吸リハセンター」と「訪問リハビリテーション」とも連携し、科学的根拠に基づいたリハビリを追求しています。

患者さまへの3つの約束

1

患者さまの
"できた"をあきらめずに
追求します。

2

治療ガイドラインや
質の高い研究結果を参考にし、
心身機能回復に直結する
リハビリテーションを提供します。

3

1日も欠かすことなく
十分な時間の確保を行い、
日常生活を取り戻すための
リハビリテーションを提供します。

最適なリハビリを提供

専門医の指示のもと、病気や症状に応じた適切なリハビリテーションを行います。

対象となる方

呼吸器の病気の方
脳卒中になられた方
骨折された方
手術や治療で体力の衰えがある方
足の切断をされた方
飲み込みに問題がある方 など

最新機器の導入

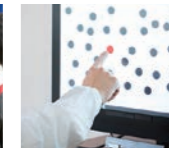
最新型のリハビリテーション機器を導入し、効果的なリハビリテーションを行っています。



VRリハビリテーション機器
「mediVR カグラ」



上肢リハビリ装置
「CoCoroe AR2」



注意分析装置
「@ATTENTION」



上肢用ロボット型運動訓練装置
「ReoGo-J」



天井走行式
体重免除装置



入浴・トイレ
シミュレーター



電気刺激装置
「G-TES」



体成分分析装置
「In Body」

訪問リハビリテーション

病院付属という特徴を活かし、医師の指示のもと、ケアマネジャー、介護スタッフ、ご家族と連携をとり、適切なリハビリテーションプログラムを提供します。

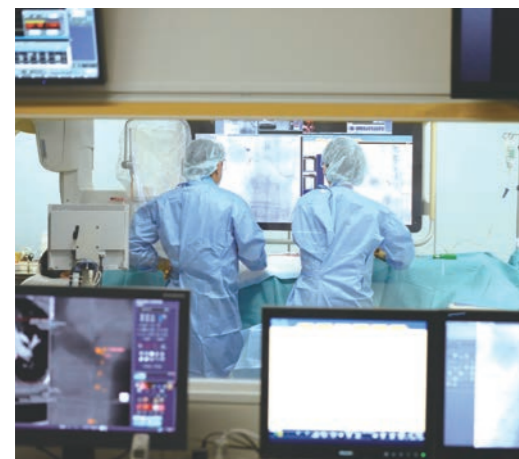
対象となる方

脳卒中になられた方、骨折された方、呼吸器の病気の方、
飲み込みに問題がある方、足の切断をされた方 など



喀血・肺循環センター

HEMOPTYSIS AND PULMONARY CENTER



世界の喀血治療をリードする専門施設

2006年5月に設立された喀血治療専門施設です。
高度で良質な喀血治療を提供し、世界的にも注目を集めています。

当院では主に、喀血に対するカテーテル治療(血管内治療)を実施しています。石川秀雄センター長は、この治療の第一人者です。オリジナルカテーテルを開発。査読英語論文を精力的に発表し、南大阪から世界に喀血治療のエビデンスを発信して、世界の喀血治療を牽引しています。

治療実績

| 年間症例数 | 累計症例数 (2018年末実績) | 止血率(1年後) |
|-------|---------------------|----------|
| 255例 | 2,724例 | 90.4% |

論文実績

- 1: Ishikawa H, Hara M, Ryuge, et al. Efficacy and safety of super selective bronchial artery coil embolisation for haemoptysis: a single-centre retrospective observational study. *BMJ Open*, 2017 Feb 17;7(2):e014805. doi: 10.1136/bmjopen-2016-014805.
- 2: Ryuge M, Hara M., Ishikawa H. et al. Mechanisms of recurrent haemoptysis after super-selective bronchial artery coil embolisation: a single-centre retrospective observational study. *Eur Radiol*. 2019 Feb;29(2):707-715. doi: 10.1007/s00330-018-5637-2. Epub 2018 Jul 19.
- 3: Ishikawa, H, Omachi, N, Ryuge, M, Takafuji, J, Hara, M. (2019) Erratic coil migration in the bronchus after bronchial artery embolization. *Respirology Case Reports*, 7(8), e00478. <https://doi.org/10.1002/rrc2.478>

担当医のご紹介



石川 秀雄
喀血・肺循環センター長



大町 直樹
喀血・肺循環センター副センター長



西原 昂
喀血・肺循環センター医長



山口 悠
呼吸器インターベンション医長

喀血とその治療

喀血とは

喀血(かっけつ)とは肺や気道からの出血で、消化管から出血する吐血とは異なります。原因として、気管支拡張症、非結核性抗酸菌症、特発性喀血症、肺アスペルギルス症、肺結核後遺症などがあり、非結核性抗酸菌症による喀血が増えています。

気管支動脈塞栓術 きかんしどうみやくそくせんじゆつ

気管支動脈塞栓術(BAE)とは、喀血に対するカテーテル治療(血管内治療)です。金属コイルなどの塞栓(そくせん)物質を、喀血の原因になっている血管に詰めて血管をふさぎ、出血を抑えます。現在では、喀血治療の主流となっています。

治療の目的

最大の目的は、大喀血による喀血死(窒息死)の予防です。血痰は基本的には治療対象ではありません。ただし、抗凝固剤や抗血小板剤を服用している患者さまは、少量の喀血であっても、安心してこれらの薬剤が服用できるように治療を行う場合があります。

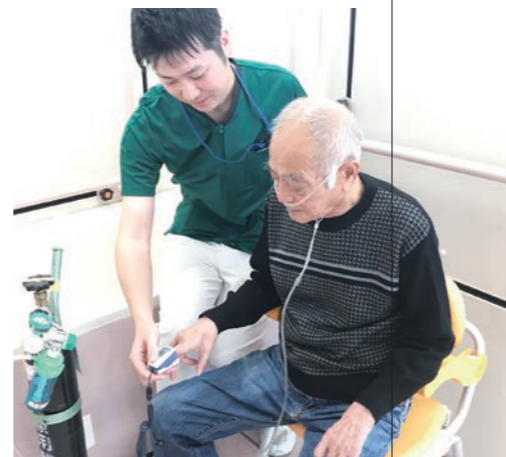
治療の流れ

外来を受診し、造影CT(CTアンギオ)による検査を行い、治療計画を立て、入院申し込みをします。入院期間は3泊4日から5泊6日程度、1回の治療にかかる時間は1時間から3時間が目安です。病状に応じて治療の翌月または翌々月に退院が可能です。

© 喀血と治療法については、Wikipediaでも詳しくご覧いただけます

呼吸リハビリテーションセンター

RESPIRATORY REHABILITATION CENTER



呼吸器の障害に特化したリハビリテーション

病気や外傷によって呼吸器に障害が生じた患者さまに対して、可能な限り機能を回復あるいは維持することによって症状を改善し、患者さま自身が自立した日常や社会生活を送れるように継続的に支援します。

呼吸リハの目的

- 肺機能の低下によって引き起こされる呼吸困難感をコントロールしながら、体力を向上させ、日常生活動作の障害を改善します。
- 感染などによって引き起こされる増悪を防止し、入院回数・日数を減少させます。
- 患者さまの意識と行動を健康状態の保持増進に向かわせ、維持することを支援します。

呼吸リハビリテーション実績 (2019年度)

| | |
|---------------------|-----------------|
| 在宅復帰率 | 6分間で歩ける距離 |
| 82.8% | 平均113m改善 |
| 重症割合(COPD) | 平均在院日数 |
| 最重度56% 重度44% | 55.1日 |

呼吸リハの特徴

| | |
|-------------------------|--|
| 南大阪地域で最多 呼吸器専門医 6名在籍 | 呼吸療法認定士が在籍 日本胸病外科学会・日本呼吸器学会・日本麻酔学会が認定 |
| 呼吸リハビリテーション 365日実施 | 退院後のフォローが充実 当院の訪問リハビリテーションと連携 |

呼吸リハビリテーションの内容

- 体力の向上を目指し、立つこと・歩くことを中心としたリハビリテーションを実施します。
- 呼吸困難感を軽減させる動き方や呼吸方法の練習を実施し、日常生活動作が円滑に行えるようサポートします。
- 必要に応じて家屋訪問を実施し、在宅復帰を支援します。

| 対象となる疾患 | |
|---|---|
| 急性発症した呼吸器疾患の方 | 〔肺炎・無気肺・肺腫瘍・胸部外傷など〕 |
| 呼吸器の手術をされた方 | |
| 慢性の呼吸器疾患で、呼吸困難や日常生活機能の低下を来たす方 | |
| 慢性閉塞性肺疾患(COPD)・気管支喘息・気管支拡張症・間質性肺炎など (右記のいずれかが該当すること) | 1) 坂道や急ぎ足・日常生活で息切れがある 2) 慢性閉塞性肺疾患の重症度分類でⅡ以上である(%FEV:80%未満) 3) 呼吸障害により日常生活に支障を来たしている |

※上記疾患でリハビリテーションをご希望の方は、主治医・かかりつけ医にご相談ください。

回復期リハビリテーション病棟

RECOVERY REHABILITATION



その人らしい暮らしを取り戻すために

回復期リハビリ病棟では、けがや病気などが原因で今までのように体を動かせなくなった方が、自分らしい生活を送ることができるように、さまざまな職種が力を合わせ、サポートしています。

リハビリテーション実績 ※2019年1月～6月

| | | |
|---------------|------------------------|-------------|
| 平均リハビリ時間 | 平均入院期間 | 重症の方の割合 |
| 2時間26分 | 81日 | 40% |
| 重症から改善された方の割合 | 自宅へ帰られた方の割合 | 当院のスタッフの数 |
| 86% | 83% (全国平均78.3%) | 100名 |

| 対象となる疾患 | 発症後または手術後 | 入院期間 |
|--|-----------|------|
| 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷、等の発症後もしくは手術後の状態または義肢装着訓練を要する状態 | 2ヶ月以内 | 150日 |
| 高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷および頭部外傷を含む多部位外傷の状態 | | 180日 |
| 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節または2肢以上の多発骨折の発症後または手術後の状態 | | 90日 |
| 外科的手術または肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後の状態 | 1ヶ月以内 | 60日 |
| 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節または膝関節の神経、筋または靭帯損傷後の状態 | | 90日 |
| 股関節または膝関節の置換術後の状態 | | |









チーム医療

医師・看護師・社会福祉士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護助手・薬剤師・管理栄養士などといった職種が互いの専門性を尊重しチームとして患者さまの治療、介護にあたります。患者さま一人ひとりに合わせた計画を立て、脳障害や運動麻痺をはじめとする後遺症の回復や日常動作の改善・向上を目指します。入院中のリハビリテーションだけでなく、退院後の生活の見据え、各種手続きや情報提供など、退院し社会や家庭に復帰できるようサポートを行っています。



入院から退院まで

当院には、回復期リハビリテーション病棟と一般病棟があります。入院相談から退院までの流れについてご紹介します。

| | | | | | |
|---|---|--|---|---|---|
| <p>回復期 リハビリテーション 病棟</p>  | <p>入院相談 / 入院前面談</p>  <p>入院されている病院の転院調整窓口(地域連携室・医療相談員・看護師など)にご相談ください。また、入院前にご本人もしくはご家族と面談を行います。電話面談や出張面談、面談なしでの入院も可能です。</p> | <p>入院 / 入院時訪問指導</p>  <p>転院の搬送は当院で手配します。入院当日は医師よりご説明しますのでご家族が当院にお越しください。ご希望があれば、専門のスタッフが家屋評価のためご自宅に伺い、住宅改修や福祉用具などのご提案をします。</p> | <p>リハビリテーション</p>  <p>入院日よりリハビリテーションを開始します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・歯科衛生士が、それぞれ専門的なりハビリを提供します。 ※毎日2時間以上、土日祝も実施</p> | <p>カンファレンス / インフォームドコンセント</p>  <p>多くの職種でチームを組み、患者さまの状態の確認や退院後の生活について、毎月、話し合います。また、患者さまの状態や治療方針をご説明し、患者さまやご家族の希望を聞きながら、治療を進めます。</p> | <p>退院準備 / 退院</p>  <p>退院先については、医療相談員が中心となって支援します。ご自宅へ戻る場合は、必要に応じてご自宅を訪問し、安全性を確認します。病院や施設へ転院する場合は、状態に応じた医療機関や介護施設・福祉施設をご紹介します。</p> |
|---|---|--|---|---|---|

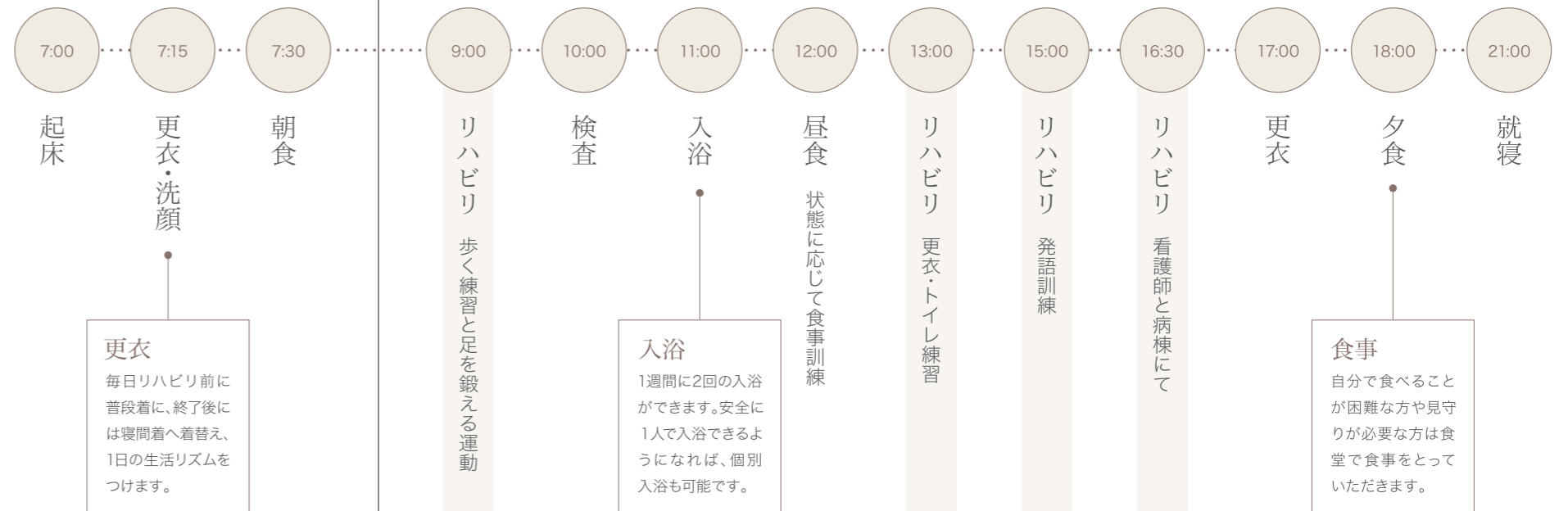
一般病棟

一般病棟の場合も同様に、入院から退院まで支援します。入院中は社会福祉士が担当につきまますので、お気軽にご相談ください。

- ご家族に来院していただく必要があるのは、入院時、治療方針が変更される場合、退院調整を行うとき(必要時)です。
- 介護保険をお持ちの方はリハビリ開始から3カ月後に来院が必要です(相談員から連絡します)。

入院中の1日の流れ

入院中の1日の過ごし方の例。リハビリは毎日2時間以上実施します。



※いずれも患者さまの状態により変更する場合があります

入院について

患者さまのニーズに応じて、さまざまなタイプの病室をご用意しています。

病室のご案内

※全室別途設備使用料(550円)が必要です
※各フロアに洗濯機を設置しています(無料)。ご使用の際はスタッフにお声かけください



大部屋

設備 鍵付きシステム収納家具 / 冷蔵庫 / テレビ



二人部屋

設備 鍵付きシステム収納家具 / 冷蔵庫 / テレビ 料金 3,300円



個室

設備 鍵付きシステム収納家具 / 冷蔵庫 / テレビ / トイレ 料金 11,000円(トイレなし) / 13,200円(トイレあり)

リハビリを支える食事



栄養面から患者さまのリハビリをサポートいたします。食事が楽しみのひとつとなるよう、四季を感じる行事食や、日本各地の郷土料理も取り入れています。

よくあるご質問

Q 入院時に用意するものは?

歯磨きセット、衣類(肌着)、入浴用具(シャンプーなど)、洗面具、コップ(プラスチック製)、ティッシュ、爪切り、髭剃りなどをご用意ください。お箸、スプーンは食事の際にお出しします。貴重品はなるべくお持ちにならないようお願いいたします。

Q 入院中の寝具について

病院備え付けのものをご用意ください。シーツ類は、1週間に1度交換します(特に汚れがひどい場合など、特別な場合はその都度交換します)。

Q 付き添いについて

入院中は付き添いの必要はありません。ただし、ご家族が付き添いを希望される場合は、医師・看護師にご相談ください。

Q 面会時間・消灯時間

ご家族の面会時間は午前9時から午後8時まで。ご家族以外の方の面会は午後1時から同8時まで。午後9時以降は消灯させていただきます。

Q 面会について

患者さまの症状によっては面会をお断りすることがあります。面会時間外の来院、多人数での面会、お子様特に乳幼児の同伴、ベットの持ち込みはご遠慮ください。

Q お支払いについて

入院費用およびリース費用は、毎月末締め翌月10日以後に請求書を発行します。1階受付の自動精算機もしくは振込み(手数料は患者さま負担)でお支払いください。クレジットカードでもお支払い可能です。

お問い合わせ

入院についてご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

岸和田リハビリテーション病院 地域連携課

TEL 072-426-9000